

海外安全対策情報（平成30年度第2四半期）

1 社会・治安情勢

パラナ州公安局発表によるクリチバ市の2017年の殺人件数は379件で、件数、殺人率共に依然として高い数値で推移している。2017年クリチバ大都市圏での殺人件数は900件、10万人あたりに換算すると27.4件、世界保健機構が許容範囲としている殺人件数（10万人あたり10件）の約3倍。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）クリチバ市及び大都市圏では近年、誘拐、ATM爆破強盗、携帯電話販売店や薬局店、レストラン及び住居を狙った武装強盗、運転中及び停車中を狙った車両強盗、武装集団による長距離バス及び路線バス内強盗が多発している。時間帯、場所を問わず銃器を使用した犯罪が増加しており、十分な注意が必要である。渡航情報（危険情報）については、パラナ州クリチバ大都市圏は「十分注意してください」を継続中。

（2）パラナ州西部に面する隣国との国境地帯（特にパラグアイ）からは頻繁に大麻等の麻薬類及び銃器類の密輸が行われており、軍警察による押収量は増加する一方である。2009年及び2010年のパラナ州における武器押収量は全伯一位である。近年、パラナ州は麻薬の搬入ルートのみならず麻薬消費地域となっており、麻薬絡みの犯罪も増加している。

3 犯罪事例（7月～9月）

（1）7月4日（水）21：40頃、クリチバ市セントロ地区にあるチラデンテス広場付近で、30歳ぐらいの男性が女性に数発発砲された。男性は病院へ搬送されたが重体で、女性は逃走した。

（2）8月13日（月）午前8時頃、ロンドリーナ市内のメトロポリタン大聖堂に2人組の男性が押し入った。当時教会内には司祭、警備員を含めた15人がおり、2人の強盗犯は15人を2階へ連れて上がった。司祭は強盗犯がエレベーターで上がっている隙に警察に通報し、軍警察により短時間で強盗犯2名は逮捕され、奪われていた現金は無事であった。

（3）8月15日（水）クリチバ市メルセス地区ジャカレイジーニョ通りの薬局で、45歳男性が強盗をし、間もなくパトロール中の軍警察官に発見された。犯人は逃走を図ったが、同日夕方、クリチバ市サンフランシスコ地区タバジヨス通りで、軍警察官に射殺された。犯人の足首には電子足枷が付いていた。

（4）8月22日（水）19時頃、クリチバ市セントロ地区にあるバス停で、バス停の係員に対し拳銃を所持していた男性2人組が強盗しようとした。バスを待っていた乗

客の1人が抵抗しようとしたため強盗犯の2人組が発砲し、その乗客と係員の胸部と腹部に命中したが命に別状は無かった。その後強盗犯は逃走した。なお、同バス停は館員1名、職員3名が日常的に使用しているバス停である。

(5) 8月23日(木) 早朝、クリチバ市アグアヴェルジ地区で、1組のカップルが男性2人を襲った。そのカップルは最初、1時頃にレプブリカアルゼンチナ通りで男性1人を強盗目的で刺した。30分後、最初の現場から近いサンタカタリーナ通りにて別の男性を刺した。被害者2人は病院に搬送され命に別状は無かった。

(6) 8月26日(日) 午後、クリチバ市ピニエイロ地区で強盗と警察の特殊部隊による銃撃戦があった。拳銃を所持した男性2人組が、イザックフェレイラダクルズ通りにあるバス停でリオネグロ行きのバスに乗り込み、運転手及び乗客から金品を奪った。たまたま付近をパトロールしていた軍警察特殊部隊は、バスの異変に気づき犯人と銃撃戦になった。犯人の内1人は射殺され、1人は逮捕された。

(7) 8月29日(水) 10時頃、クリチバ市サンタカンディダ地区にあるスーパーマーケットコンドルで、数十台の携帯電話が盗まれた。犯人グループは全員黒い服を着ており、軍警察が犯人グループの行方を追ったが、その日のうちには誰も見つからなかった。

(8) 9月4日(火) 夜、クリチバ市クリストヘイ地区のアントニオゴメスフェヘイラ通りとアフォンソカマルゴ通りの交差点辺りで、25歳の男性が胸を拳銃で撃たれ死亡した。軍警察の調べによると、遺体付近にクラックのパイプが落ちていた。被害者が殺害された動機、殺害された場所は分かっておらず、付近住民は拳銃が発砲された音等は聞いていないとのこと。

(9) 9月5日(水)、クリチバ市ボケイラオン地区にあるイポリートダコスタバス停で、強盗目的のため自転車で現れた若い男性が、バス停にお金が無いのを見て、常駐していた料金係の23歳男性に向け突然発砲した。被害者男性は太ももに被弾し病院へ搬送されたが、命に別状は無く、警察は犯人の行方を追っている。

(10) 9月20日(木) 午前、クリチバ市ジャルジンダスアメリカ地区にあるエラストガエルトネル病院の駐車場で、男性が病院にいた娘を車の中で待っている時、強盗犯に襲われた。犯人は被害者男性に車から降りよう命じ、被害者男性が車から降りたところ、たまたまパトロールしていた軍警察官と遭遇し、銃撃戦となった。軍警察官の撃った弾は犯人に被弾したが、命には別状は無く犯人は逮捕された。